

HuRP通信

HuRP通信
2012年

6月号 (第70号)

<http://www.hurp.info>

2012年6月9日、全水道会館にて、
出版記念講演会 **金大中氏の功績と「金大中図書館」** を行いました。



当日はあいにくの小雨でしたが、70名を超える参加者にお越しいただきました。

まず始めに、刊行されたばかりのブックレット「金大中図書館に行ってみよう」の紹介をHuRPより行い、その後、韓国からお越しいただいたおふたり——金大中図書館の金聖在（キム・ソンジェ）館長に「金大中大統領と金大中図書館」と題して、そして韓勝憲（ハン・スンホン）弁護士に「指導者金大中の苦難と栄光」と題して、講演していただきました。

金聖在館長は、金大中大統領のもとで政策企画首席秘書官を努めていた方でもあります。政治家としての金大中氏の信念と行動力、民主化への思い、そして大統領となってから、どのような思想で行動されていたのかについて、エピソードを交えながら語っていただきました。とくに金正日元国防委員長との南北首脳会談（2000年6月15日）にまつわるくだり——事前に何の合意もなかったこと、徹底した準備

行ったこと、会談への心構え、当日の様態など、いきいきとお話いただきました。

韓勝憲先生には、金大中氏の経験した3つの苦難——韓先生が真相究明に奔走した「金大中拉致事件」、先生が弁護士として裁判に参加した「大統領選挙法、国会議員選挙法違反事件」、先生も共同被告人として一緒に法廷に立った「金大中内乱陰謀事件」について振り返っていただきました。そのうえで、これらを一時の回想や聞き心地のいい言葉の羅列に終わってはならず、「金大中氏の崇高な遺志や生き方を絶えず確認し合い、そこから悟りを得て、あの方が願っていた世界を実現することが、正しい追慕の道となりましょう。」と締めくくられました。

会場の全水道会館は、1994年3月5日に日本の人々からなる「金大中氏拉致事件の解決を求める会」の結成総会が開かれた場所だそうです。このような場所で、隣国の民主化の歴史と人間を学ぶことができたのはとても有意義でした。講演録は、法学館憲法研究所報に掲載予定です。

参加者のアンケートに記された感想をいくつかご紹介します。

* * *

「韓国の友人と日本のマンガや映画の話をしていて、日本の文化が好きって言ってくれました。それが、1998年の金大中大統領の大衆文化開放のおかげだったとは。金大中大統領のことが突然身近に感じました。たった15年前だったなんてびっくりです。

ドイツ国民と比べて加害者意識・反省が足りないと言われたのは、つらかったです。本当のことなので。

韓国の方の韓国についての（日本も関わっているけど）話だったのに、日本について考えさせられました。」（20歳代・女性）

「お二人のお話から金大中氏が何をされて、どのように生きて、どんな影響を及ぼしたか、少しですが理解できました。そしてお二人がどんなふう to 思っているかという思いにも触れることができました。

今回のお話を聞きながら、自分自身はこの先どう生きるのか、地に足をつけて考えなければいけないと感じました。」

（40歳代・女性）

「日本及び韓国現代史において重要な役割を果たした（今後も影響力のある）金大中氏に関して、大変有意義な講演会であったと思います。」

（50歳代・男性）

「実に好企画です。韓勝憲先生は今後ともわれわれ日韓交流のためのベストなリーダーです。40年交流してきた私は責任をもって推薦できます。」

（80歳代・男性）

「雨の日のイベントは、昨年冬、金大中国図書館にいった日と、そのときに簡単な下調べしかなかった後悔とを私に思い出させました。

金大中国図書館は、2003年にソウル市に建てられた金大中元大統領の半生を回顧した図書館で、開館時とても話題になっていたことは



記憶に新しいと思います。

今回、韓先生・金先生により金大中元大統領がどのような方であるか、何を思い、何をされたのかを当時の社会の動向を踏まえ、また、それに対する意見を順を追って詳しく説明していただきました。

金元大統領のは民主化運動をしながらカトリック教徒であったこともあり、人を赦し愛することを常に唱えていたこと、プライベートでは何をすることもパートナーと一緒にしたことなど、貴重なエピソードを聴くことができました。偉大な方は決してワンマンでなく人との出会いを大切にしているのかもしれない。

激動の半生をたった数時間で振り返っただけでしたが、金元大統領がどんな行動をしたか（金先生いわく行動の良心）を知り、歴史を勉強するという感覚ではなく、その人の行動にある背景として歴史を捉えるという観点を見出せたことで、あることに対する固着観念が変わったこと、さらに、どんな状況におかれても人を愛することは各々が自己中心になりがちな現代において忘れてはならない精神であることをうたえているように思えました。

今後は、特に若い世代の人が金元大統領に倣って行動をし、人を赦し愛していくことが必要であると感じました。」

（Y・Y）

「延世大学 金大中図書館に行ってみよう」

人権・平和国際情報センター編

2012年6月25日刊行 定価1,000円 株



人権と民主主義をつくった 韓国民衆の歴史に触れてみよう

「大統領が死刑囚になる国、そして死刑囚が大統領になる国、韓国はそのように激動を経験しながら歴史が正される国です。そのような歴史の中心に金大中元大統領がいました。」

本書に掲載された金大中元大統領の弁護人であり、5.18 光州民主化運動（1980年）では共同被告人でもあった韓勝憲弁護士のことばです。

歴史教育に不熱心な日本では、学校教育で自国や世界の現代史が十分に教えられていません。私たち市民は「なぜ、日本は朝鮮半島などを植民地にしていたのか」、「なぜ、戦争をしたのか」、「なぜ、いまもアジアの国々から戦争の補償を求められているのか」、こうした疑問を正面から話し合うことにも慣れていません。日本国憲法第9条が戦争放棄を定めて以来、日本は「基本的」に、他の国と武力で争うことはもちろん、国内においても、自衛隊という軍事力を有していますが、武力による市民の弾圧を行ったことはありません（警察力による過度の鎮圧事件はありましたが）。1945年以降、現在に至るまでそうした環境の日本で生活する私たちにとって、人を

武力で押さえつけることがいかに人の生きる権利や人々が平和に共生することを妨げ、破壊するのを実感、あるいはイメージすることは大変困難です。平和や人権について、目に見える具体的な侵害がなかったからで、それは大変価値のあることです。

しかしその価値を実感し、維持、発展させる「想像力」が私たちになれば、人権を尊重し、平和に共生できる社会は守られないでしょう。

冒頭のことばは人権侵害の究極としての死刑を、当時の軍事政権から宣告された人物、金大中氏が大統領になり、民主化を進めた韓国から何を学ぶべきかを端的に表現しています。それは、分断国家という現実を背負いながら、軍権力の究極の弾圧に対抗して、民主主義社会を実現した韓国民衆の現代史に学ぶということです。

歴史は民衆が作るという真実と、そこに常に金大中氏がいたことの意味を肌で感じることは私たちと私たちが住む日本社会に多くの示唆を与えてくれると思います。ぜひ、本書を片手に「金大中図書館に行ってみてはいかがでしょうか。」
(串崎)

二〇一二年六月、金大中氏の墓前にお持ち頂きました。



♪ オノQの今月の一曲 ♪

“This Land is Your Land”

(Woody Guthrie, 1940)



ウディ・ガスリー

・現実を見つめ続けた詩人

かつてアメリカには“Hobo (ホーボー)”と呼ばれた人々がいたそうです。20世紀初頭の大恐慌時代に、汽車を乗り継ぎ、働いては放浪をしながらアメリカ各地を渡り歩いた労働者達を、そのように呼んだのです。

その日暮らしの彼らの奔放な生き方は、アメリカらしい自由なスピリットを彷彿とさせ、後世の人にとっては、ある種の憧れの対象にもなりました。

紹介するウディ・ガスリーもそうしたホーボーのような放浪生活を送った人でした。彼はそうした旅のなかで、貧困・差別など、労働者の直面する厳しい現実を目にしたようです。そこで得た経験が、彼をプロテストソングの第一人者にしました。労働組合運動など、社会的な活動もしてきた彼は、後にボブ・ディランをはじめとするフォーク・ソング歌手にも多大な影響を与えたといわれています。

表題の曲は、アメリカでも有名な国民的な曲のようですが、実際に歌詞を読んでもみると、ハイウェイ、深い溪谷、はてしない大地と、まさにアメリカの心象風景を賛美する歌のように思えます。しかし、途中では、「飢えた人々はいぶかしんでいた。本当にこの国はあんたと俺達のためにつくられたのか？って」というように、労働者の現実が鋭く指摘されています（なお歌詞中の“land”は“国／大地”のダブルミーニングでしょう）。ホーボーの生活は、確かに牧歌的な魅力を持っていますが、同時にその厳しい現実を歌ったこの曲は、ガスリーの鋭い眼差しを感じさせる一曲です。

★編集後記★

この号は、HuRP と憲法研究所が共催で行った6月9日の講演会の模様をお伝えしました。臨場感が伝わりましたでしょうか。参加者のなかに中平健吉弁護士がおられ、韓先生が講演の途中で、軍事政権時代から今に至るまで、韓国の民主化運動を支援してくれた日本の良心として中平先生を紹介されました。講演後、しずかに語り合うおふたりの姿に心を打たれました。

(A)

特定非営利活動法人「人権・平和国際情報センター」(HuRP:ハーブ)
Human Rights and Peace Information Center Japan (HuRP)

〒171-0014 東京都豊島区池袋 2-17-8 丸十ビル 402号
TEL/FAX 03-6914-0085 e-mail hurp@hurp.info HP <http://www.hurp.info/>